

| 1-1 建物概要 | | | 1-2 外観 | |
|----------|----------------------|--------|----------------|--|
| 建物名称 | 象印サービスセンター他新築工事 | 階数 | 地上5F | |
| 建設地 | 大阪府大東市新田 | 構造 | S造 | |
| 用途地域 | 準工業地域、防火地域指定無し | 平均居住人員 | 80人 | |
| 地域区分 | 6地域 | 年間使用時間 | 2,250時間/年(想定値) | |
| 建物用途 | 事務所、工場 | 評価の段階 | 実施設計段階評価 | |
| 竣工年 | 2025年12月 予定 | 評価の実施日 | 2024年7月3日 | |
| 敷地面積 | 4,679 m ² | 作成者 | 中原大貴 | |
| 建築面積 | 2,024 m ² | 確認日 | 2024年7月10日 | |
| 延床面積 | 9,623 m ² | 確認者 | 堤有人 | |



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.8 ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.0

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.1

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.6

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.5

LR のスコア = 3.8

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.4

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.6

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.4

| 3 設計上の配慮事項 | |
|--|---|
| <p>総合</p> <ul style="list-style-type: none"> 内外装材にはメンテナンス性、吸音性、対候性といった機能面での配慮に加えて、企業理念や利用用途を考慮した適切な仕様としている。 執務スペースや天井高さ、窓、リフレッシュスペースを十分に確保することでゆとりある快適な空間とするとともに、階高等は対応性・更新性にも配慮している。 中高木を含む効果的な植栽計画により、周辺環境との調和や防犯性に配慮している。 | <p>その他</p> <p>特になし。</p> |
| <p>Q1 室内環境</p> <ul style="list-style-type: none"> 開口部には遮音性の高い建具(T-2仕様)を採用している。 吸音性の高い天井、床材を採用している。 ブラインド+外壁面のセットバックによりグレアを制御している。 全館禁煙の方針とし、喫煙を制御している。 | <p>Q2 サービス性能</p> <ul style="list-style-type: none"> 事務室において、1人当たりの執務スペースや天井高さをゆとりある計画とし、窓を十分に確保している。 リフレッシュスペースを十分に確保し、自動販売機を設置する。 企業理念を表現する適切な内外装仕様を計画、事前検証している。 維持メンテナンス・更新に配慮した内装仕上げ材を採用している。 ゆとりのある階高、壁長さ比率により対応性・更新性に配慮している。 |
| <p>LR1 エネルギー</p> <ul style="list-style-type: none"> 外皮性能向上に向け、断熱材の厚みを通常よりも厚く計画している。 消費電力の少ないLED照明の採用している。 | <p>LR2 資源・マテリアル</p> <ul style="list-style-type: none"> 床材及び天井材にリサイクル資材を採用している。 室内間仕切の大部分は乾式工法壁とするとともに、床にはOAフロアを採用している。 接着剤、塗料、塗床材において、有害物質を含まない材料を採用している。 |
| | <p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <ul style="list-style-type: none"> 敷地内に中高木及び地被植物を適切に計画することで、緑の量・質ともに十分に確保している。 無彩色を主とする外装材や沿道の中高木により良好な景観を形成するとともに、見通しのよいフェンスを設置し防犯性にも配慮している。 適切に空地を確保し通風を促すと同時に、中高木、ピロティ、庇等の計画により日陰の形成を図っている。 |
| | <p>LR3 敷地外環境</p> <ul style="list-style-type: none"> 十分な駐輪場・駐車場を確保するとともに、駐車場の導入部にはアルコーブを確保し、交通負荷の抑制を図っている。 |

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

大阪府の重点評価(結果)

Osakafu-新築・既存 2024V1.2

| | | | | | | | |
|--------|------------------------|-------------------------------------|------------------------|-------|---|---------------|-------|
| 【建物概要】 | 建物名称 | 象印サービスセンター他新築工事 | | | | | |
| | 建設地 | 大阪府大東市南新田 | | | | | |
| | 用途/区分 | 工場 事務所 | | | | | |
| 【評価結果】 | CASBEE 総合評価 | | | | | A | |
| ① | CO2削減 | | | | | 4 | |
| ② | みどり・ヒート アイランド対策 | | | | | 2 | |
| ③ | 断熱性能 | | | | | 5 | |
| | | 建築物省エネ法に基づく 省エネ性能ラベル | 住宅(住棟)又は 複合建築物の住宅部分 | 評価対象外 | | 評価対象外 | |
| ④ | エネルギー消費性能 | | | | | 5 | |
| | | 建築物省エネ法に基づく 省エネ性能ラベル | 住宅(住棟)又は 複合建築物の住宅部分 | 評価対象外 | | 評価対象外 | |
| | | 非住宅建築物又は 複合建築物の非住宅部分 | | | 5 | | |
| ⑤ | 自然エネルギー直接利用 | | | | | — | |
| | 再生可能エネルギー 利用施設の導入状況 | 太陽光発電 | ○ | 風力 | — | 地熱 | — |
| | | 太陽熱利用 | — | 水力 | — | バイオマス | — |
| | | エネルギー消費量の報告 | | | | 報告しない | |
| 【評価項目】 | | | | | | | |
| | 項目 | 評価内容 | | | | スコア | 評価 |
| ① | CO2削減 | CASBEE LR3 敷地外環境 1. 地球温暖化への配慮 | | | | 4.0 | 4 |
| ② | みどり・ヒートアイランド対策 | | | | | | |
| | 生物環境の保全と創出 | CASBEE Q3 室外環境(敷地内) 1. 生物環境の保全と創出 | | | | 2.0 | 2 |
| | 敷地内温熱環境の向上 | CASBEE Q3 室外環境(敷地内) 3. 2 敷地内温熱環境の向上 | | | | 2.0 | |
| | 温熱環境悪化の改善 | CASBEE LR3 敷地外環境 2. 2 温熱環境悪化の改善 | | | | 2.0 | |
| ③ | 断熱性能 | CASBEE LR1 エネルギー 1. 建物外皮の熱負荷抑制 | | | | 5.0 | 5 |
| ④ | エネルギー消費性能 | CASBEE LR1 エネルギー 3. 設備システムの効率化 | | | | 5.0 | 5 |
| ⑤ | 自然エネルギー利用 | CASBEE LR1 エネルギー 2. 自然エネルギー利用 | | | | 3.0 | — |
| | エネルギー消費の実態把握に努める | エネルギー消費量の実績を3年間報告する。 | | | | 報告する 報告しない | 報告しない |
| その他 | | | | | | | |
| | | 技術の名称 | 考慮事項 | | | | |
| | 先進的技術の導入 | | | | | | |
| | 特に配慮した事項 | | | | | | |